

単元の目標

知識及び技能	運動観察の方法を理解するとともに、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶことができるようになる。
思考力、判断力、表現力等	動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようになる。
学びに向かう力、人間性等	自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするようにする。

※共：単元全時間を男女共習

	1	2	3	4	5	6	7	評価規準	
ねらい	競技の特性や技の名称について理解するとともに自己の目標を見つけていることができる。	公平性を考えたグループをつくり、基本技を習得するためのアドバイスを行うことができる。【助走】	基本技を習得するためにグループで協力し、協議学習（ジグソー活動）を行うことができる。【跳躍動作】	一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることができる。					
導入	準備運動 (ストレッチの紹介)								
展開	○競技の特性や技の名称について理解できるように、映像等を使って説明する。4局面に分類 ○個に応じた目標記録を設定する。 ①立ち幅跳びの記録を参考に数式に当てはめ、算出。 ②実際に跳躍し、算出した記録を調整する。 ③目標記録を決定する。	○グループ決め 基本技の差を考慮して、平均化したグループ 共：(2) 体力差や技能差を平均化した男女混合グループの工夫	【助走の練習】 課題：スピードに乗った助走をする ○グループ内でさらにペアを作り、助走距離を探る。 ○目安から助走したときの踏切板との差を観察させ、助走距離の調整アドバイスをする。 ○ピニールひもを腰に付け、スピードに乗った助走を意識・練習させる。 共：スピードをピニールひもで可視化させ、アドバイスを行いやすくする。	前時の振り返り活動（学習内容や技能のポイントを確認する）	○記録会② ・一人2本 ・記録の良い方を使って点数を付ける。 ・グループの合計得点を出し、評価する。 共：(1) 個人的運動を集団化した教材の工夫 ・勝敗を冷静に受け止める。記録だけでなく、これまでの過程（グループでの教え合いやフォーム）に目を向けるように指導する。	○記録会① ・一人2本 ・記録の良い方と点数とする。 共：(1) 個人的運動を集団化した教材の工夫 ・グループの合計得点を出し、評価する。	○記録会② ・一人2本 ・記録の良い方を使って点数を付ける。 ・グループの合計得点を出し、評価する。 共：(1) 個人的運動を集団化した教材の工夫 ・勝敗を冷静に受け止める。記録だけでなく、これまでの過程（グループでの教え合いやフォーム）に目を向けるように指導する。		
閉	○今後の学習の見通しを持つことができるように、記録会の評価方法について説明し、跳躍動作などの出来映えも評価していくことを説明する。	【助走の練習】 課題：自分に適した助走の距離を見つける。 共：グループ内でさらにペアを作り、助走距離を探る。 ・踏切板から逆走し大まかな目安を見つめる。	【助走の練習】 課題：自分に適した助走の距離を見つける。 共：スピードをピニールひもで可視化させ、アドバイスを行いやすくする。	【跳躍動作の練習】 課題：自分の役割を果たし、跳躍動作における合理的な体の動かかし方を習得する。 《エキスパート活動》 A 踏切動作（目線・跳ぶ方法） B 空中動作（手の使い方・体の反り） C 着地動作（着地の形） の3つの局面でエキスパート活動を行う。 タブレットを活用し、それぞれの説明資料を作成する。 共：(3) 体力や技能差に関わらず課題解決に取り組む工夫					
終末									
知識・技能	①	②	②	③	③	②③	③		
思考・判断・表現						①			
主体		②	②	①			③		

整理運動、振り返り（授業後のアンケート等）の記入

技能を平均化した男女混合グループによる評価方法・課題解決の工夫
 中学校第3学年 C 陸上競技 才 走り幅跳び

1 単元の目標

- 運動の観察方法を理解するとともに基本的な技を滑らかに安定して行い、発展技を行うことができるようにする。 【知識及び技能】
- 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向け自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- 自主的に取り組むとともに、互いに助け、教え合おうとすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするようにすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) 個人的運動を集団化した教材の工夫

本単元では、自他の記録の向上を目指して課題解決に取り組むために、グループごとに個人目標と記録の差を点数化し合計した点数を平均して競争するグループ対抗戦を単元の最後に位置付けた【資料1】【資料2】。単元の始めの段階にグループ対抗戦の行い方を確認すると、自分だけが記録を伸ばせばよいという考えから、グループのメンバーの記録を伸ばすことが必要という考えに変化し、練習中からグループ内でアドバイスをする場面が見られた。

3. チームで協力して高得点を目指そう!

メンバー: _____

◇記録会(得点表)◇

得点	10	9	8	7	6
目標との差	41cm以上	31~40cm	21~30cm	11~20cm	0~10cm
得点	5	4	3	2	1
目標との差	-1~10cm	-11~20cm	-21~30cm	-31~40cm	-41cm以下

単元の最後は記録会◎
 目標記録との差が点数になるよ!

【資料1 個人記録の得点表】

記録会 目標記録表

(4 班)

氏名	目標記録	実際	差	ポイント
●●	3m 69cm	3m 70cm	+1	6
●●	3m 10cm	3m 10cm	+0	6
●●	3m 55cm	3m 00cm	-55	2
●●	2m 69cm	2m 52cm	-17	4
●●	3m 50cm	3m 10cm	-40	2

【資料2 記録表】

(2) 体力差や技能差を平均化した男女混合グループの工夫

本学習は、グループでの活動(学び合い)が主となる。そのため、5月に行った新体力テストの立ち幅跳びの記録を参考にしながら、他の種目で実施した競技の様子や体力差などを考慮し、技能を平均化した男女混合のグループングを行った【資料3】。グループングの工夫を行うことにより、男女での活動はスムーズに行われ、跳躍動作のポイントを学ぶジグソー活動では、「調べる・まとめる・実践する」を協力して行うことができた。特に、対象学級には特別支援学級の生徒が2名(情緒1名、知的1名)在籍している。「調べる・まとめる」の部分では2名の生徒が活動しやすいように役割を分担したり、「実践する」の場面では、教師の指示や運動技能のポイントを理解しやすくするために、説明をかみ砕いて声をかけたりと工夫する様子が見られた。



【資料3 男女混合のグループング】

(3) 体力や技能差に関わらず課題解決に取り組む工夫

生徒が体力や技能差に関係なく動きのポイントを見付け課題解決することができるために、ICT 機器を活用し知識構成型ジグソー法を用いて学び合う場を設定した。跳躍動作のポイントを学ぶ場面で

は、助走を合わせた後、跳躍に挑戦するも着地に失敗したり、踏切がうまくいかなかったり記録が伸びなかったため、記録を伸ばすための合理的な動きについて学習を行った。自分たちの失敗の経験があったため意欲的に調べ学習を行い、ジグソー活動ではエキスパート活動で調べた内容をグループ内に一生懸命に説明する様子も見られた【資料4】【資料5】。



【資料4 ジグソー活動の様子】



【資料5 仲間に説明する様子】

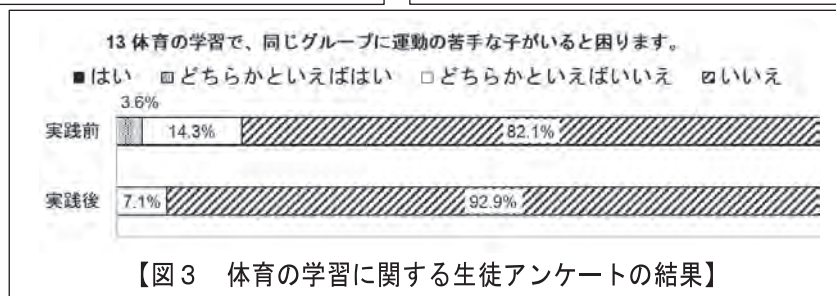
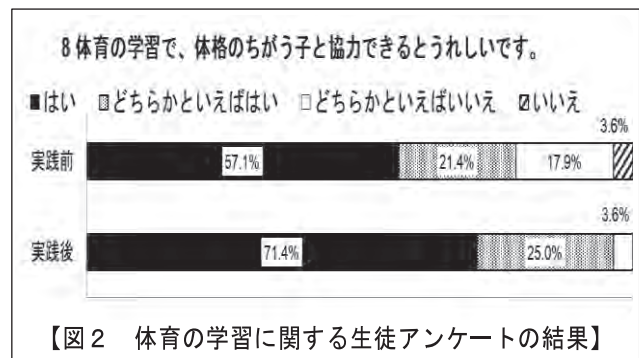
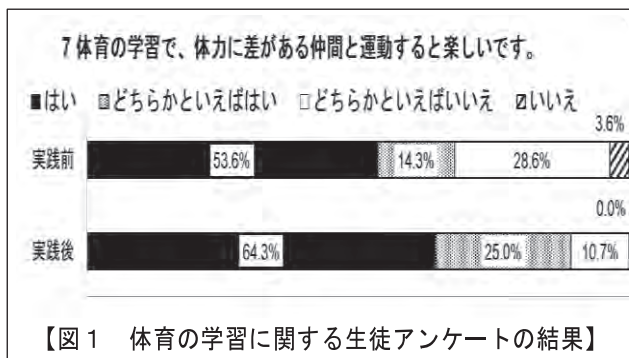
3 成果と課題

(1) 成果

対象学級では、体力や体格差が大きく、特別支援学級に在籍している生徒も一緒に学習を行っている。全ての生徒が、体力差や障がいの有無等にかかわらず、仲間と関わりながら運動の楽しさや喜びを味わってほしいと考え、教材化の工夫やグルーピングの工夫、課題解決の工夫の仕掛けを行い、実践に取り組んだ。

- 「体育の学習に関する生徒アンケート」において、「体育の学習で、体力に差がある仲間と運動すると楽しいです」「体育の学習で、体格のちがう子と協力できるとうれいす」という項目で、「はい」「どちらかといえばはい」と回答した生徒が増加した【図1】【図2】。また、「体育の学習で、同じグループに運動の苦手な子がいると困ります」という項目で、「いいえ」「どちらかといえばいいえ」と回答した生徒が増加した【図3】。

これらのことから、グループごとに個人目標と記録の差を点数化し合計した点数を平均して競争するグループ対抗戦の教材化を行ったこと、体力差や技能などを平均化した男女混合のグルーピングを行い、グループの得点を伸ばすために、ICTを活用したり、ジグソー法を用いて学び合いの活動を設定したりしたことが有効であったと考える。

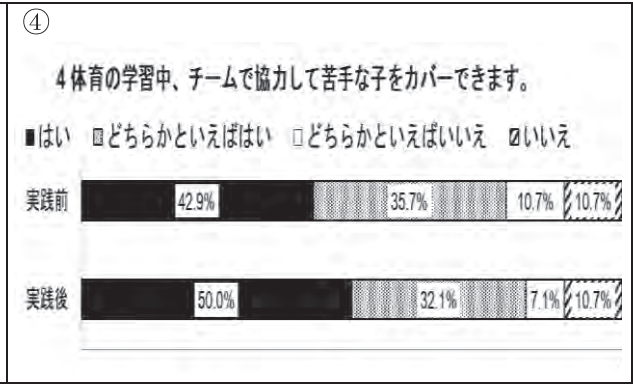
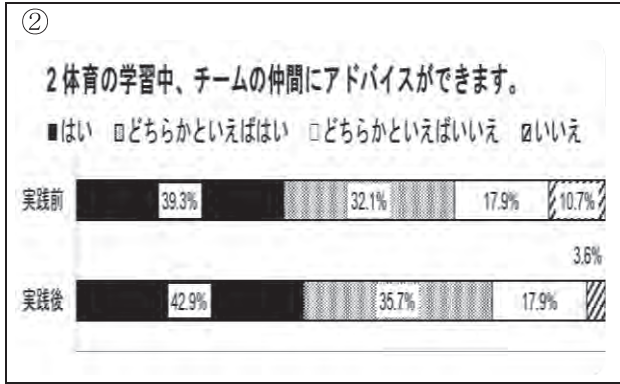


(2) 課題

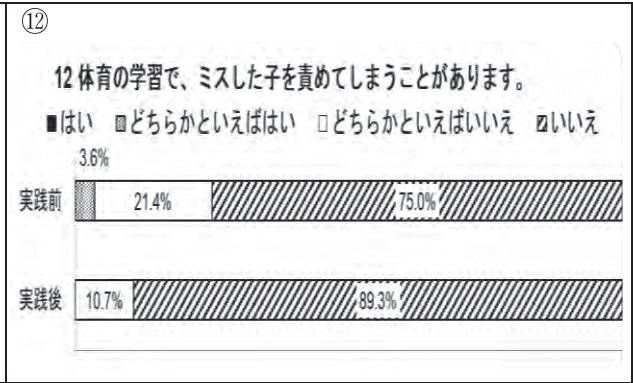
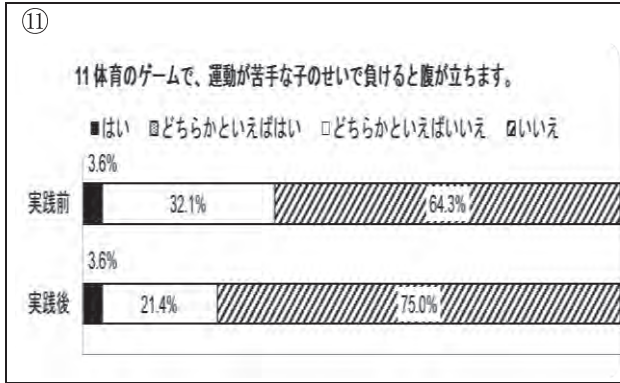
- 苦手な生徒に運動のイメージやコツを伝えることに苦戦する生徒が多く存在した。また、支援を要する生徒にどのように伝えるかを悩む生徒もいたため、運動を言葉で表す方法（オノマトペやアナログン等）を指導していく必要があると考える。
- 勝負にかかわらず、全員が楽しみながら技能を向上させることができるグループを、自分たちで考えることができる力を身に付けさせたい。

【児童生徒の変容】

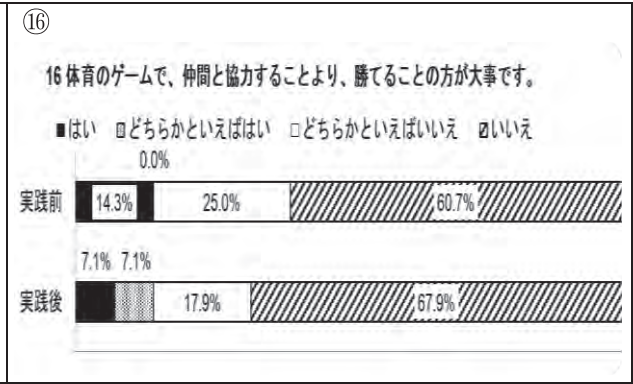
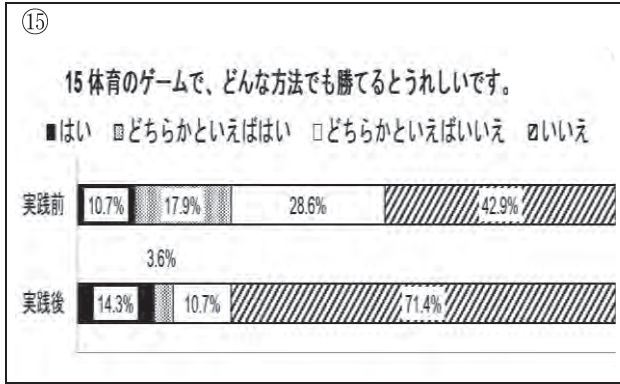
〔I リーダーシップ〕



〔IV 失敗への排斥〕



〔V 過度な勝利志向〕



〔排除雰囲気〕

